

2016
No.83

[2016年12月~2017年2月号]

青山学院大学

〒150-8366

東京都渋谷区渋谷4-4-25

<http://www.aoyama.ac.jp/>

AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS



特集 海外留学

青学から世界へ、留学の夢をサポート

特集 ボランティアセンター スタート!

Topics

本学学生による、
米原市の原水ミネラルウォーター商品化参画企画

AGU Lecture

社会情報学部 メディア情報処理およびその応用



社会情報学部 伊藤ゼミ

Aoyama Gakuin since 1874

青学から世界へ、留学の夢をサポート

本学では学生が籍を置いたまま休学せずに約1年間、海外の大学で学べる在学留学制度をはじめ、さまざまな留学の機会を設けています。ここでは協定校留学やインターンシップを経験した学生たちのメッセージをご紹介します。

長期留学

協定校留学(派遣交換留学)

本学と海外の大学との学生相互交換協定に基づき、学生を派遣し合う制度です。出願資格を満たし、学内の書類審査および面接による選抜に合格することが必要で、本学に学費を支払うことで、協定により留学先大学への授業料は免除されます。

※一部協定校へは私費留学も可能

認定校留学

学生自身が事前に留学を希望する学位授与権を有する大学または高等教育機関の入学許可を取得した上、本学に認定校留学の申請をし、認められた場合に留学できる制度です。ただし、本学および留学先にも学費を支払う必要があります。

留学準備スケジュール(協定校留学)

※留学準備スケジュールの日程は2016年度のものであります。

	2016年												2017年												2018年											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月								
前期出発	第一期募集												第二期募集												第三期募集											
後期出発	第一期募集												第二期募集												第三期募集											
前期出発	第一期募集												第二期募集												第三期募集											
後期出発	第一期募集												第二期募集												第三期募集											
前期出発	第一期募集												第二期募集												第三期募集											
後期出発	第一期募集												第二期募集												第三期募集											
前期出発	第一期募集												第二期募集												第三期募集											
後期出発	第一期募集												第二期募集												第三期募集											
前期出発	第一期募集												第二期募集												第三期募集											
後期出発	第一期募集												第二期募集												第三期募集											

■ 前期出発(第一期募集) アジア/韓国 英語圏/オーストラリア ヨーロッパ/フランス(Uниверситэ de Franche-Comté)
■ 前期出発(第二期募集) アジア/韓国 英語圏/オーストラリアおよび協定校留学(私費)
■ 後期出発(第一期募集) アジア/中国・台湾・ベトナム・タイ・ブルネイ・マレーシア・モンゴル・カザフスタン 英語圏/カナダ・アメリカ・イギリス
■ 後期出発(第二期募集) 中南米・ヨーロッパ/エクアドル・メキシコ・フランス・スイス・ドイツ・スペイン・ハンガリー・ポーランド・ブルガリア・ウクライナ・ロシア・フィンランド MISEN/ACUCA
■ 後期出発(第二期募集) アジア/中国・台湾・ベトナム・タイ・ブルネイ・マレーシア・モンゴル・カザフスタン 英語圏/カナダ・アメリカ・イギリスおよび協定校留学(私費)
■ 後期出発(第二期募集) 中南米・ヨーロッパ/エクアドル・メキシコ・フランス・スイス・ドイツ・スペイン・ハンガリー・ポーランド・ブルガリア・ウクライナ・ロシア・フィンランド MISEN/ACUCA

留学サポート制度

本学では単位認定制度や継続履修制度、給付奨学金制度を設けています。

- **単位認定制度** 留学先の大学で修得した単位を、留学終了後、本学の単位に振り替える制度です。
- **継続履修制度(後期出発の場合)** 留学前(前期)に履修登録をした通年科目を、帰国後(後期)に継続して履修することが原則として認められる制度です。

- **給付奨学金制度** 青山学院大学産学合同万代外国留学奨励奨学金★や、青山学院国際交流基金奨学金、(独)日本学生支援機構 海外留学支援制度(協定派遣)奨学金などがあります。

青山学院大学産学合同万代外国留学奨励奨学金★
 海外留学を志す本学学生を対象として、本学と株式会社太平エンジニアリングが共同で学業資金として奨学金を給付することにより、経済的負担の軽減と外国留学の奨励を目的としたもの
 (2016年度:実績年額50万~100万円) ※留学形態および所属学部による。

※詳細は、国際交流センターウェブサイトをご確認ください。 <http://web.iec.aoyama.ac.jp/>

留学体験レポート

自分の考えを論じる論理的思考法が身に付きました

協定校留学 カナダ(バンクーバー)
The University of British Columbia
 2015年9月~2016年4月

木本 真さん
 文学部 英米文学科3年
 千葉県立津田沼高等学校出身

カナダのプリティッシュコロンビア大学は、街の雰囲気と調和した建物や近くにはビーチなどがあり、居心地の良い環境でした。せっかくの機会なので専攻以外のことも学ぼうと、哲学系の授業を履修しました。そのおかげで、他の学生の意見や考えをまとめ、気になった点に触れながら自分の考えを論じる論理的思考法が身に付きました。また興味のある分野を新たに学んだところ、意外なところ

で専門分野とつながっていることを発見できました。現地で知り合った人たちとは、今も交流が続いています。留学は勉強だけではなく、さまざまな文化圏の人と出会い、見聞を広げられる貴重な機会だと思います。

留学前の準備として、毎日英語の本を読み、リスニング教材を聴いていました。青学のIELTS対策講座は単位認定される上、留学に必要なスコアのテストとして自分の実力も把握できるのでおすすめです



相談などで青学の国際交流センターをよく利用しました

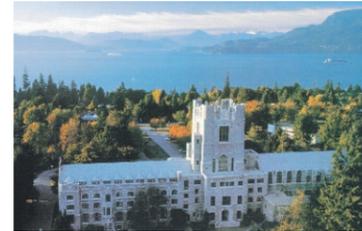


クラスメートと食事に行くなどで交流を深めました

す。国際交流センター主催のオリエンテーションでは書類申請などの手続きについて丁寧な指導が受けられるので、こちらもぜひ参加してください。

木本さんが紹介! プリティッシュコロンビア大学

学生数 約58,000人・留学生 約10,000人
 スーパーや銀行、病院など、生活に必要な施設はキャンパス内にすべて揃っており、ほとんどの留学生サービスは大学のウェブサイトです。留学生同士の交流も盛んで、さまざまなイベントも開催されます。



将来は、日本と台湾、アジアの国々の架け橋に

協定校留学 台湾(台北)
国立台湾大学
 2015年9月~2016年6月

柴田 有香さん
 国際政治経済学部 国際政治学科3年
 東京・私立青山学院高等学校出身



台湾風書道。半紙が赤いのが特徴です

大学で国際政治を専門的に学んでいくうちに、台湾に興味を持つようになり、現地で台湾の政治を学びたいと思い留学を決意しました。書類審査や面接では、どうしても台湾に留学に行きたいという熱意をアピールしました。私が留学していた国立台湾大学は世界中から交換留学生が集まり、中国語だけでなく英語で話す機会も多かったです。最初は慣れない環境に戸惑うこともありましたが、事前に国際交流センター主催の異文化理解

セミナーなどに参加していたので特に大きな問題もなく、10カ月間楽しく過ごすことができました。資金面では、産学合同万代外国留学奨励奨学金★を受けることができ、非常に助かりました。

今回の留学では、台湾の政治だけでなく日台関係やアジア全体の政治についても理解を深めることができました。さまざまな国の学生とつながりを持てたことも私の大きな財産になりました。将来は日

本と台湾、アジアの国々の架け橋となるような仕事に就けたら良いなと考えています。

柴田さんが紹介! 国立台湾大学

学生数 約32,000人・留学生 約1,800人
 希望すると学生一人につき一人のチューターが付き、困ったことがあると何でも相談することができます。大学の広さは台湾の国土の1%を占め、校内移動は自転車が必要。大学、寮ともに駅から徒歩圏内にあり、近くにはコンビニ、スーパーなどがあります。



端午節で、クラスメートと友達の地元

ASEAN協定校特別派遣留学で学んだ「多様性を受け入れる」こと

協定校留学 マレーシア(クアラルンプール)
University of Malaya
2015年9月~2016年1月

松家 里沙さん
国際政治経済学部 国際政治学科4年
東京・私立青山学院高等部出身

急成長するASEANの「今」を自分の目で確かめたくて、マレーシアへの留学を決意しました。留学前は、国際交流センターで事前研修を行い、何を学びたいのか、そのために必要な知識や行動は何か、を徹底的に考えました。私は現地で「マレーシアは多民族共存の成功例と断言できるのか」というテーマの研究を行いました。マレーシアは多様な民族、宗

教、言語、文化が混在し共存する国家です。毎朝、イスラム教徒の礼拝の音楽で目を覚まし、昼はインド系民族の屋台で食事をして、夜は中華系民族の夜市で買い物をし、といった「多様性が当たり前」の社会で日々を送りました。もちろん、頻繁に起こる停電や断水、寮に侵入する野生の猿、イスラム教の規定など、戸惑うこともありました。しかし、「多様性を受け入

れる」ということが、いかに難しく、重要であるかを学ぶことができました。自分が今まで持ち続けてきた「常識」を見つめ直す機会として、ASEANへの留学に挑戦してみたいかがでしょうか。



首都クアラルンプールの「ジャンガル」と呼ばれるマラヤ大学のキャンパス



大学寮の屋台。インド系、マレー系、中華系の料理が楽しめます

松家さんが紹介! **マラヤ大学**

学生数 約33,000人・留学生 約3,500人
大学の国際交流センターでは、ホームステイやone day tripなどのプログラムを無料で提供しています。キャンパス内には猿やコモドドラゴンなどさまざまな野生動物も生息。留学生が多く滞る寮は徒歩20分の場所にあります。

経験で得られた知識やスキルを、自分の強みに

インターンシップ アメリカ(シアトル)
シアトル発コーヒーチェーン店
2016年8月~9月

金子 友美さん
経営学部 マーケティング学科2年
千葉県立幕張総合高等学校出身

夏休みを利用して海外インターンシップに参加しました。私にとって初めての海外、しかも派遣先のカフェも青学から初の受け入れです。最初は不安とプレッシャーを感じましたが、海外インターンシップ奨励金の給付が励みになりました。出発までは登録していたビジネス英語のスクールに通ったり、カフェの日本支店に訪問して現地情報を入手したりして、準備を進めました。

現地ではだいたい13時から18時までの週5~6日勤務で、主にバリスタとしての業務を行いました。研修2日目からは忙しい店舗へのお手伝いにも挑戦させてもらった他、新商品の日本進出のマーケティングプランを考え、社長の前でプレゼンテーションするといった経験もさせていただきました。最初は英語でのコ

ミュニケーションに苦労しましたが、理解する努力を続けることで、早口の英語も聞き取れるようになりました。この経験で得られた専門的な知識やスキルを、自分の強みにしていきたいと思っています。



研修先の社長の前のプレゼンテーションの様子



本店ではラテアートの練習もしていました

金子さんの研修先

研修先のシアトル本店は1990年創立、全米では4店舗を展開しています。最高品質のアラビカ種の豆のみを使用したコーヒーを提供しており、エスプレッソを使ったピラレツジだけでも20種類以上と、ラインナップも充実しています。

2016年度 学業成績優秀者表彰

学業成績優秀者表彰は、各学部にて在籍する2年生以上の学生で、前年度において学業成績が優秀と認められた者に対し表彰し、表彰盾および副賞が授与されます。2016年度は、下記の学生が表彰され、7月13日(水)に青山キャンパス本多記念国際会議場にて授与式が行われました。(2015年度までは「青山学院大学給付奨学金」「青山学院大学大学院給付奨学金」「青山学院大学学業奨励賞」として実施)

[2016年度 学業成績優秀者表彰 表彰者一覧] ※敬称略

(学部) 最優秀賞	社会情報学部 新井 翔太 五木田 梓 澁谷 光	市川 壮哉 小佐野 愛 工藤 光大 柏木園 真帆	平松 賢 (以上68名)	赤井 七海 木村 陽平 北川 隆博	野口 遥花 上田 千里 千葉 ゆりあ	杉田 真也 法学研究科 馬 晴雨 堀 申駿 土ヶ内 一貴 山地 雅幸 経営学研究科 村田 一樹 国際政治経済学研究科 岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
文学部 松浦 理恵子 塩原 秀明 日野 遥香 濱田 のどか 後閑 瑞穂 須藤 ひかり	地球社会共生学部 堀内 香子 (以上37名)	経営学部 岡田 あかり 木戸 宏一 田中 さつき 富岡 奈緒 三浦 郁花 高橋 果奈 三橋 陽 藍原 まい	奨励賞 文学部 菅沼 亜衣 大村 遼子 菊川 智瑛 清水 紗江 村田 朱音 森本 優里 渡辺 瑞紀 木本 真緒	法学部 今井 佳澄 登山 実夏 百鳥 琢也 大越 智之 金子 俊介 小林 誉 下村 沙季 マリン 水島 顯介 谷川 碧 平山 翔太 前川 陽香 高橋 実己	理工学部 加藤 誠也 澤田 百々子 渡邊 翼 石井 凌賀 大越 智之 野際 佳奈 加藤 峻圭 黒田 哲史 仲宗根 禎人 山田 達司 田村 大樹 森川 晶子 花見 唯 平野 雅也 藤原 将平	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
教育人間科学部 小笠原 史乃 浅野 まどか 宮坂 菜里波	国際政治経済学部 長澤 誠 伊藤 莉菜 内藤 伊玖真 関根 萌恵	国際政治経済学部 清水 朝菜 渡辺 桃加 木村 柚紀 山岸 未都生 佐藤 朱莉 重久 理奈 重久 理奈 富田 彬之 比野 平 智子 西内 彩乃	国際政治経済学部 王 千月 梅嶋 佳保 中村 駿希 山田 理一郎 今井 美咲 計 美辰 総合文化政策学部 島野 萌 田中 絵里菜 西川 玲奈 二木 佑香	経営学部 安達 良和 木村 佳名 式 麻彩 山田 千紗 杉山 寧音 須見 明奈 中村 里奈 吉原 悠耶 新井 彩生 榎井 みのり 茅野 玖美 横井 梨穂	社会情報学部 宇都宮 理沙 佐藤 良聖 海野 真希 鈴木 瑞樹 竹内 萌 片山 夏実 村松 真友子 野村 まりあ 箕輪 咲紀 池田 李央 田井 美由紀 小高 真奈 日比野 愛 小野塚 希	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
経営学部 下村 智恵子 伍 張昶 伊藤 たま系 須田 理紗子	国際政治経済学部 小寺 さやか 寺門 夏生 堀池 秀	経済学部 遠藤 晴人 金子 史憲 木村 瑞杜 外山 恵 高橋 真依子 直井 慧 岡 みのり 相良 百香	国際政治経済学部 遠矢 観月	理工学部 榎井 みのり 茅野 玖美 横井 梨穂	地球社会共生学部 高木 涼葉 橋口 奈津美 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
総合文化政策学部 登坂 紀香 村石 加帆 西川 ゆきえ	法学部 矢越 啓明 安藤 早紀 山田 大雅 田中 裕人 水野 翔太 松本 樹生	法学部 岩間 琴美 大西 理紗 吉村 愛 五十嵐 咲	経済学部 林 佑希 平佐 利樹 北村 進太郎 宮崎 裕久 角田 真奈美 大島 愛 社会情報学部 清水 眞理子 鈴木 愛美 倉林 諒 小川 舞佳 地球社会共生学部 小松 美凜	国際政治経済学部 松家 里沙 松永 みなみ 黒田 梨沙子 笹澤 桃子 篠崎 雅子 魚谷 菜央 奥田 理紗子 臼田 菜 杉岡 朋美	国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
理工学部 矢越 啓明 安藤 早紀 山田 大雅 田中 裕人 水野 翔太 松本 樹生	法学部 岩間 琴美 大西 理紗 吉村 愛 五十嵐 咲	法学部 岩間 琴美 大西 理紗 吉村 愛 五十嵐 咲	地球社会共生学部 小松 美凜	国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	(大学院) 最優秀賞	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					文学研究科 牧野 茜 上村 顕太郎 岡田 彩香 杉山 和也	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					教育人間科学研究科 笠 由里香 仲村 拓真	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					経済学研究科 小出 和泉 齊藤 友美 永井 友規	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					総合文化政策学部 小出 和泉 齊藤 友美 永井 友規	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子 理工学研究科 石橋 結衣 岩澤 大地 片桐 勇人 三ヶ尻 祐 齋藤 弘稀 藤井 達也 塚本 健太 木津谷 剛志 長尾 隆夫 金子 直史
					国際政治経済学部 橋本 さくら (以上102名)	岩下 剛 梅本 晋平 椎野 幸平 齋藤 奈穂 総合文化政策学研究科 石塚 聡子 大木 由美子

特集 ボランティアセンター スタート!



ボランティアセンター長よりメッセージ

～ボランティアセンターの開設にあたって～

ボランティアセンターが開設されました。既に活動しているボランティア・ステーションを基礎に、より充実したボランティア活動の支援を目指すものです。情報提供・交流を通じて、学生生活にうまくとけ込んだ、さりげない自然な形のボランティア活動がそこそこに見られるようになることを願っています。気軽に立ち寄ってください。

鈴木 真理 教育人間科学部長・教育人間科学研究科長

ボランティアセンターは、学生・教職員による社会貢献活動の促進を目的として設置されました。センター内に専門のコーディネーターを配置し、学生個人および団体の活動をサポートします。また、これまでボランティア・ステーションの学生スタッフが提供してきた学生目線によるボランティア活動企画も引き続き提供していきます。

サポート内容

個人向け：ボランティア活動情報・団体の紹介、各種個別相談 など
団体向け：センター主催の新歓イベント実施、センター内施設利用（ミーティングスペース、掲示版、プロジェクター等機材）など

※上記の内容は一例です。今後、徐々に体制を整え、サポート内容を充実させていく予定です。

窓口開室時間

青山キャンパス 1号館1階
 (月～金)10:00～11:30
 12:30～18:00
 (土)10:00～13:00

※土曜日は基本的に隔週
 ※詳細は、大学ウェブサイトでご確認ください。

問い合わせ先

青山学院大学
 ボランティアセンター
 TEL. 03-3409-6154
 FAX. 03-3409-6028

インドネシアプロジェクト

活動期間：2016年8月22日～9月2日 参加人数：8名

教育人間科学部 教育学科2年 能登 貴一さん
 神奈川県立希望ヶ丘高等学校出身



日本語についての授業を行っている様子

インドネシアでは国内の全体的な取り組みとして、先進的な環境教育が推進されています。今年はジャワ島西ジャワ州デボック市を訪れ、一般参加者2名を含めた計8名で、グリーンスクール2校、公立小・中学校を訪問し、公衆衛生・教育・防災の観点から生徒たちに授業を行いました。公衆衛生の手洗い教育では、手を洗うことの大切さを伝え、防災教育では地震のメカニズムについて、地震への事前の対策について話しました。訪問した学校間で学習習熟度に大きな差があり、各学校の要望に沿ったボランティアを提供する必要性を改めて考えさせられました。また、青学生が国を越えて人と人をつなぐ直接的な役割を担うことは何より有意義だと感じています。



小学生に日本名を書いてあげている様子

フィリピンプロジェクト

活動期間：2016年8月19日～9月4日 参加人数：7名

教育人間科学部 教育学科2年 西溜 夏美さん
 鹿児島県立加治木高等学校出身



環境教育に絵本の読み聞かせの様子

2・3年生男女7名で、約2週間フィリピンのシキホール島の小学校20校を訪問しました。現地の子どもたちに環境教育や理科実験、折り紙を中心とした異文化交流・教育支援活動を行いました。そして5年間続けてきた活動の集大成として、これまで子どもたちに教えてきたソーラン節の大会を開催することができました。どの活動も子どもたちにとって貴重な経験となり、そしてそのために参加者全員で千思万考した時間は、双方共に一歩違う世界が見えるきっかけになったと感じています。現地の方々のニーズを第一とした活動を目指し、今後もさまざまな課題を解決しつつ、私たちにできることを探し続けていきたいと思っています。



初めて自分で折った折り紙

熊本プロジェクト (熊本県益城町・西原村)

活動期間：2016年8月14日～9月3日 参加人数：21名

教育人間科学部 教育学科4年 松村 悠太郎さん
 宮城・私立東北学院榴ヶ岡高等学校出身



ユニットハウス村において炊き出しの作業を行っている様子



熊本大学と合同で行った仮設住宅聞き取り調査での集合写真

震災直後、学内ではAGUくまもと応援募金活動が行われました。体育会・文連の有志の方々などが多く活動に参加してくれたおかげで認知度も高まり、さらに地震発生後すぐに活動を始めたため、短期間で多くの寄付を熊本に届けることができました。

現地での活動は、熊本県益城町ではユニットハウス(避難所)の運営補助、イベント・炊き出しの企画、熊本大学と合同で仮設住宅での聞き取り調査を、西原村では災害ボランティアセンターの運営を実施しました。被害に遭われた方のニーズに応じた活動ができたと思います。また、ユニットハウスは私たちの生活拠点でもあったので、「避難されている方々と支え合いながら生活する」という感覚が強く、貴重な経験になりました。プロジェクトを通じて、ボランティアはコミュニティを活性化させる架け橋になる必要があるということ、プロジェクト継続のためには中長期的な計画を立てるとともに、被災地の方々からの活動に対する評価を分析することが重要だと感じました。



西原村ボランティアセンターにてボランティア受付の電話応対をしている様子



7月の視察の際にお世話になった方に陸上競技部のサインを渡したときの様子

陸前高田プロジェクト (岩手県陸前高田市)

活動期間：2016年8月3日～13日 参加人数：7名

国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科2年 岡林 真琴さん
 東京・私立女子聖学院高等学校出身



あすなろホームの方々と共に装飾用タイルの作業を行っている様子(福祉支援)

陸前高田プロジェクトでは、復興を考える際に、行政の目が届きにくい子どもたちや障がいを持った方を中心とした教育支援、地域支援、福祉支援、そして90年以上の伝統を誇る祭りの「うごく七夕」「けんか七夕」のお手伝いをしました。

このプロジェクトのプログラムを作るにあたり、陸前高田の方の想いに一つ一つ真剣に向き合っていくことを大切にしてきました。中学生から「青学に入りたい!」「みんなのおかげで夏の思い出がたくさんできたよ!ありがとう! 陸前高田に引っ越してきて!」と声をかけてもらったときは本当に嬉しく思いました。今後は、陸前高田の方が私たちに繰り返し伝えてくださっている、災害に備えることの大切さを青学生へ発信していきたいと思っています。



勉強や外遊びを行った地域支援で集まった中高生と(地域支援)

塩竈プロジェクト (宮城県塩竈市)

活動期間：2016年8月6日～20日、9月4日 参加人数：のべ48名

文学部 日本文学科3年 今野 友彰さん
 宮城・私立東北学院高等学校出身



浦戸諸島野々島にて、牡蠣養殖の補助を行う様子

プロジェクトには教育支援と経済復興支援があります。教育支援では学童保育の補助や中学生への学習支援、経済復興支援では産業のお手伝いやPR動画制作などを行いました。現地の方からはいつも感謝の言葉をいただいておりますが、震災から5年以上が経過している今、復興の先の「発展」をより意識した活動にしていかなければいけないと思っています。そしてプロジェクトの継続のためには、青学と塩竈市の連携協定や関係者との結び付き、多数の学生が参加といった現況の恵まれた環境に甘えないことが大切だと感じます。この活動は私自身や他の学生にとって、広く社会問題を考えるきっかけになりました。後任にはぜひ、プロジェクトを作っていく過程の醍醐味も感じてもらいたいです。



中学生への学習サポートの様子

本学学生による、米原市の原水ミネラルウォーター商品化参画企画

本学と米原市は2015年11月2日(月)に包括連携協定を締結しました。その一環として、米原市における原水ミネラルウォーターの商品化計画に本学学生が企画案を検討することで参画しました。応募件数8件、計26名の学生からの参加があり、最終審査で優勝したグループ(経営学部マーケティング学科2年 川原真珠子さん、黒河内ともみさん、田村琳子さん、早川あすかさん)の企画が「米原水」として商品化されました。

実践マーケティング企画にチャレンジ

田村 琳子さん
経営学部 マーケティング学科2年 秋田県立秋田北高等学校出身

私たちは、「米原水」の商品化にあたり、米原市が見えて、米原市を知ることができるといふこと、また水は透明で向こう側が透けて見えるということから「見えるお水」というコンセプトでこの企画を提案しました。ペットボトルラベル正面のデザインは各色が米原の豊かな自然を表し、米原市の情報が「見える」ようにしました。また、裏面が透けて、米原市をイメージした男性の

キャラクターが見えます。これは「見える」を強調し、学生らしいユニークさを表すためです。また、キャラクターや米原市紹介文で実際に米原市を訪れたような気持ちになってもらいたいという思いがあります。出来上がった商品を手に取ると嬉しい気持ちや愛着、達成感がありました。多くの方にぜひ飲んでいただきたいです。



左から 田村琳子さん、黒河内ともみさん、早川あすかさん、川原真珠子さん

また2016年10月5日(水)に行われたMAIBARA水企画「米原水お披露目会」では米原市に招待していただき、さまざまなメディアの方に「米原水」の魅力を伝えました。実際に訪れると、米原市はのどかでとても良いまちで、このまちのPRに貢献できたことをとても嬉しく思います。実践的に学べたこの経験を、これからマーケティングの研究に生かしていきたいと思ひます。



AGU Lecture 082



メディア情報処理およびその応用

伊藤 一成
社会情報学部 社会情報学科准教授

テキスト、音声、画像、映像などのコンテンツを対象とした情報処理をメディア情報処理といいます。近年では膨大なマルチメディアコンテンツにアクセス可能となりました。しかし、同時に単なる情報消費社会に陥ってしまうという懸念を抱えています。本ゼミナール(ゼミ)ではこのような問題について、情報科学や情報工学を基軸としつつも広域かつ多面的視点から探究しています。つまり、本学部が学際系学部であるという特長をうまく生かしていることが、本ゼミの特色といえます。

その一例が、表現メディアの一つであるピクトグラム(絵記号)です。ピクトグラムは観光、異文化コミュニケーション、語学、認知科学、美術、心理学、福祉工学など、さまざまな学問領域などで扱われています。ゼミではこれを研究対象とすることで、私だけでなく学生も、多彩な学問領域の理論やテーマをピクトグラムを通じて間接的に学ぶことができます。さらに、別の分野の研究者と連携できるのも、ピクトグラムを研究する醍醐味です。

ピクトグラムやプログラミングに関する対外活動も進めています。学生たちとプログラミング言語「Scratch」のイベントである「Scratch Day」に参加したり、「さがまちコンソーシアム(相模原・町田大学地域

コンソーシアム)」でワークショップを開催する中で、さまざまなことを学んでいます。ゼミでは、どうしても一から十までこと細かに指導したくなりがちなのですが、普段は、「GOSEICHO(ご清聴、ご成長)」「GODOUCHO(ご道聴、ご同調)」「GOTEICHO(ご丁重、ご低調)」「GOKEICHO(ご傾聴、ご軽佻)」には留意しようねと言っています。この4つについては本ゼミのウェブサイトにその意味するところを公開しています。

おかげさまで所属学生は自律してゼミを運営しています。モチベーションが高く、自分で考えて主体的に学ぶ姿勢もできていて感じています。

これからの時代で重要だと感じているのは、5年先、10年先を予見しながら学ぶということです。例えば近年、「プログラミング教育」の市場化が進み、多様な人が関与するようになり、「プログラミング」という言葉の解釈が急速に変化しています。商業的な作用が働く前の状態を感じておくことが大切です。また外部からの情報を遮断する時間を設けることも心がけたい点です。時代の変化を先取りして考えることは、どの研究分野でも学ぶ上で大事だと思います。



伊藤ゼミ学生
金 仙雅(キン ソナ)さん
社会情報学部
社会情報学科4年

2年生の時に伊藤先生の授業のSA(チューデントアシスタント)を担当させていただいた際、プログラミングやものづくりの面白さに気がきました。それまでプログラミングといった情報系の科目には苦手意識があったのですが、それが覆されるほど楽しく思え、伊藤ゼミに進みました。ゼミでは学年を超えた交流があったり、伊藤先生と一緒に皆で食事に行ったりと仲が良い反面、各自の研究に関する輪講の際には、皆からさまざまな意見が飛び交い議論が活発になることもあります。このように皆で学んでいく姿勢があることが、このゼミの良いところでもあります。

情報系のゼミなので、文系の学生にとって「大変そう、とてもついていけない」と不安になりがちですが、プログラミングが得意でないと入れないなどということはありません。技術があるか否かだけではなく、メディア情報処理を学びたいとかピクトグラムに興味があるとか、伊藤先生のもとで学びたいという意欲や学びの姿勢がある学生にとっては、とても良い環境だと思います。卒業後はシステムインテグレーション事業を行っている会社に就職しますが、今後も学問の世界に関わっていきたくと思っています。

「大学における通訳・翻訳教育を考えるーその理論と実践の現場から」開催報告 青山学院大学附置外国語ラボラトリー主催

2016年10月1日(土)、青山キャンパス15号館15606教室にて、小・中・高・大学教員、学生・大学院生、教育関係者を対象とした、公開セミナーを開催しました。

本企画のコーディネーターを担当した稲生衣代准教授(文学部英米文学科)司会のもと、宮澤淳一教授(外国語ラボラトリー所長・総合文化政策学部)の開会挨拶でスタート。本学でも教鞭をとり、通訳・翻訳の第一線で活躍されてきた発表者4名のそれぞれのプレゼンテーションの後、ディスカッションも行われ、大学における通訳・翻訳教育の意義、理論と実践のバランス、評価方法などについて、活発な議論が展開されました。最後に、森島豊准教授(総合文化



政策学部)のフェアトレード・ラボの協力で、コーヒーや紅茶のサービスもあり、和やかな雰囲気の中で、発表者と参加者との有意義な懇談の時を待ちました。参加者はおおよそ70名で、盛況のうちに幕を閉じました。

<発表内容と発表者>

- ①【大学での通訳教育教材はどうあるべきか】
文学部 英米文学科 水野 的教授
- ②【コミュニケーションのための気づきを促す通訳教育】
青山学院大学、東京外国語大学ほか非常勤講師 新崎 隆子先生
- ③【ハコ切りから上映会開催まで
一字幕作りを軸としたプロジェクト教育「映像翻訳ラボ」】
外国語ラボラトリー所長・総合文化政策学部 宮澤 淳一教授
- ④【実践報告 CALL教室で行う英日翻訳の授業】
青山学院大学、上智大学ほか非常勤講師 香取 芳和先生

シンポジウム 2016年度 第2回シンポジウム 「旅・スポーツ・夢・挑戦…人生の幅を楽しもう！」開催報告 東京新聞、青山学院大学社会学連携研究センター共催

2016年10月1日(土)、青山キャンパス17号館の本多記念国際会議場にて、本学社会学連携研究センター(SACRE)は東京新聞と共催して「誰もが暮らしやすい社会の実現」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

本学院の「AOYAMA VISION」の中核は「サーバント・リーダーを育成する」ことであり、「他者を敬い違いを受け入れる心」を育むなどの教育を実践するというものです。そこに共鳴した東京新聞から連携の声が掛かり実現したイベントです。

当日は本学の三木義一学長、東京新聞の大島宇一郎代表の挨拶に続き、5つの講演と報告がなされました。とりわけ子どもの頃に右手首を失いながらも、日本でただ一人の片手打ちプロゴルファーとなった小山田雅人氏のお話、要介護の高齢者でも旅行が楽しめるよう、同行や入浴介助などを行うトラベルサポーターの事例、さ



義手を添えた片手でのスイングを見せる小山田雅人氏

らには健常者から心のバリアフリーを取り除く活動を展開しながら、2020年パラリンピックを目指してトレーニングに励む山本恵理氏のお話などが印象的でした。施設・設備面ばかりが目目される中、ユニバーサルマナーなどソフト面を重視することの大切さを再認識させられたイベントでした。(社会学連携研究センター(SACRE)所長・総合文化政策学部教授 井口 典夫 記)

<講演テーマと登壇者>

- ①【人生の幅を楽しむ】
株式会社ミライロ 代表取締役社長 垣内 俊哉氏
- ②【チャレンジすることで超えられる】
プロゴルファー・PGAティーチングプロ 小山田 雅人氏
- ③【旅をあきらめない 夢をあきらめない】
クラブツーリズム株式会社 ユニバーサルデザイン旅行センター支店長 勅使河原 大二氏
- ④【沖縄県における観光 バリアフリーの取り組み】
NPO法人バリアフリーネットワーク会議理事長 親川 修氏
- ⑤【パラスポーツをやる！支える！楽しむ！】
日本財団パラリンピックサポートセンター プロジェクトマネージャー マクナルド・山本 恵理氏

青山学院大学後援会報告

(決算・予算報告)

本学後援会は、本学の教育・研究に必要な事業を援助するために設立された支援団体です。在学生の保証人とその他有志が会員となり、会員から拠出される会費(在学生保証人分は学費に含まれています)をもって、課外活動や奨学金、傷害保険への全学生加入といった学生支援およびペアレンツウィークエンド(父母懇談会)の開催など、多岐にわたる活動を行っています。毎年度の事業内容は年1回開催の評議員会(総会)で審議・決定されます。このたび、2015年度決算と2016年度予算が承認されましたので、ここにご報告いたします。

2015年度は、校友会活動補助として体育会強化指定部(硬式野球部、ラグビー部、バスケットボール部男子、バレーボール部女子、陸上競技部〈長距離ブロック〉)、山岳部、航空部、パワーリフティング部、硬式庭球部、チアリーディング部の活動費用や、オール青山メサイア公演に一部補助した他、各団体の指導者(監督、コーチ、指揮者など)への謝礼を拠出しました。2016年度もこれらの校友会活動を引き続き援助する他、就職活動補助、ボランティア活動補助など、より充実した支援ができるように取り組んでまいります。

2015年度 決算

収入の部 (単位円)	
科目	金額
前期繰越金	7,165,992
会費収入	105,076,000
貸付金回収収入	500,000
合計	112,741,992

支出の部

支出の部 (単位円)	
科目	金額
学生活動関係	
校友会活動補助	30,296,323
校友会活動指導補助	12,720,000
保険料	18,911,050
奨学金事業補助	10,000,000
大学行事補助	720,397
アドバイザー・グループ会費補助	542,500
教育環境整備補助	5,000,000
奨励金	0
就職活動補助	4,029,480
ボランティア活動補助	433,274
後援会行事関係	
ペアレンツウィークエンド費	14,928,172
旅費交通費	60,000
会議費	1,048,082
消耗品費	1,998
通信費	17,828
その他	
慶弔費	160,000
【予備費】	1,450,000
支出計	100,319,104
次期繰越金	12,422,888
合計	112,741,992

2016年度 予算

収入の部 (単位円)	
科目	金額
前期繰越金	12,422,888
会費収入	126,754,000
貸付金回収収入	500,000
合計	139,676,888

支出の部

支出の部 (単位円)	
科目	金額
学生活動関係	
校友会活動補助	32,000,000
校友会活動指導補助	12,800,000
保険料	19,076,550
奨学金事業補助	10,000,000
大学行事補助	1,000,000
アドバイザー・グループ会費補助	660,000
教育環境整備補助	8,000,000
奨励金	500,000
就職活動補助	4,200,000
ボランティア活動補助	1,500,000
後援会行事関係	
ペアレンツウィークエンド費	16,500,000
旅費交通費	100,000
会議費	900,000
消耗品費	50,000
通信費	50,000
その他	
慶弔費	300,000
【予備費】	32,040,338
支出計	139,676,888

問い合わせ先
庶務部庶務課 TEL:03-3409-8568

(100円朝食実施報告)

本学後援会主催事業の一つとして、今年も青山・相模原各キャンパス食堂にて、100円朝食が提供されました。実施期間は2016年4月7日(木)~27日(水)(15日間)と5月9日(月)~27日(金)(15日間)。月曜日から金曜日、午前8時から1時限目が開始される9時まで実施され、メニューは日替わりで、米飯食とパン食が交互になるよう提供されました。

準備された朝食は両キャンパス合わせて期間合計7,860食で、実際の提供食数は7,014食(提供率:89.2%)でした。後援会は1食当たり200円の補助を行いました。

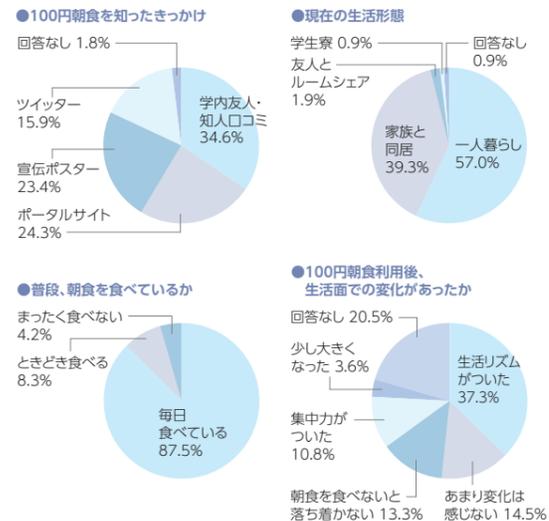
アンケートによると、一人暮らしの学生が半数を超え、高い利用結果となりました。また「100円朝食利用後、生活面での変化があったか」という質問に対しては、37.3%の学生が「生活リズムがついた」と回答しました。

その他「安く、バランスのとれた食事ができて良かった」「通学時間が長くて朝食が食べられなかったのが嬉しい」といった感想も寄せられました。



青山キャンパス 月曜日の朝食メニュー

アンケート結果



保証人の皆さまのご支援を学習環境および生活環境の改善につなげます

日頃より青山学院大学の教育研究活動に関してご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年6月に募集いたしました2016年度の「青山学院大学教育振興資金」に対して過分なるご寄付をいただきまして誠にありがとうございます。これもひとえに同振興資金募集の趣旨をご理解いただいた上でのご支援であり、身にあまる光栄に存じます。

2016年度は、前年度に引き続き、教育研究環境の充実に向け、2号館ラーニングcommons設置整備、図書館データベース充実、AED機器更新など、学習環境および生活環境の一層の改善に取り組んでおります。

この場をお借りして御礼申し上げますと共に、ご寄付くださった皆さま方のご芳名を本誌に掲載させていただきます。

ご芳名掲載対象者 339名 ご芳名掲載者 106名 匿名者 233名

ご芳名掲載対象 2016年4月1日から9月10日までのご寄付者 (五十音順)

- | | | | | | | |
|---|-------------|---|----------|----------|------|---------|
| あ | 青木 哲夫 様 | か | 加藤 隆之 様 | 高松 牧人 様 | ま | 正木 康浩 様 |
| | 浅野 道雄 様 | | 川口 敏男 様 | 高森 正隆 様 | | 松本 博子 様 |
| | 渥美 雅仁 様 | | 川崎 厳久 様 | 立岡 寿枝 様 | み | 皆川 一男 様 |
| い | 石井 友晴 様 | き | 菊地 宏 様 | 玉木 隆夫 様 | | 峰岸 正船 様 |
| | 石川 正俊 様 | | 喜田 克英 様 | 塚原 道也 様 | つ | 宮田 卓樹 様 |
| | 磯部 秀之 様 | | 木村 利雄 様 | 土田 正則 様 | | 宮野 学 様 |
| | 今川 宙 様 | | 清原 信男 様 | 手塚 則之 様 | て | 宮本 雄司 様 |
| | 岩井 聡 様 | く | 草野 耕一 様 | 徳野 留理子 様 | と | 柰師 哲郎 様 |
| う | ウルクックス 珠江 様 | | 栗田 由貴子 様 | 外崎 良則 様 | | 茂木 洋 様 |
| | 上木 善憲 様 | こ | 河野 勝利 様 | 永井 峰男 様 | な | 本井 浩二 様 |
| | 上野 敦司 様 | | 後藤 専 様 | 仲島 幸夫 様 | | 森 透 様 |
| | 白田 尚樹 様 | | 権 五徹 様 | 仲條 幸敏 様 | | 森田 隆子 様 |
| お | 大井 健成 様 | さ | 榊原 淳 様 | 中谷 光昭 様 | や | 安永 克己 様 |
| | 大塩 一進 様 | | 酒部 明正 様 | 中西 慎也 様 | | 山内 千秋 様 |
| | 太田 清文 様 | | 坂本 学 様 | 中村 篤 様 | | 山浦 義彦 様 |
| | 太田 正義 様 | | 佐野 誠美 様 | 西尾 佳子 様 | に | 山川 茂 様 |
| | 大野 高宏 様 | | 猿田 正祝 様 | 野尻 茂 様 | の | 山下 重信 様 |
| | 大場 規之 様 | | 澤田 雅子 様 | 服部 達哉 様 | は | 行好 潤介 様 |
| | 岡 宏明 様 | し | 繁友 憲郎 様 | 花井 好機 様 | し | 横地 太郎 様 |
| | 小笠原 一晴 様 | | 志田 直史 様 | 羽村 陽一郎 様 | よ | 横山 元泰 様 |
| | 岡田 清 様 | | 嶋貫 修 様 | 土方 圭以子 様 | | 吉岡 伸高 様 |
| | 岡田 章二 様 | す | 杉浦 恵子 様 | 廣杉 正明 様 | | 吉田 武司 様 |
| | 岡安 涉子 様 | | 鈴木 伸太郎 様 | 廣瀬 暢彦 様 | | 吉田 博史 様 |
| | 小川 裕 様 | | 鈴木 博史 様 | 廣瀬 幸利 様 | わ | 湧川 温子 様 |
| | 小倉 俊彦 様 | せ | 関 智昭 様 | 藤原 猛史 様 | | |
| | 小澤 修太郎 様 | た | 高橋 郁夫 様 | 細田 泰成 様 | 法人寄付 | (株)北善 様 |
| | 小野 悟 様 | | 高橋 みつる 様 | 本郷 賢和 様 | | |

※ご芳名掲載の意思表示は「教育振興資金ご寄付のお願い」に同封の振込用紙にて依頼しております。希望されない方、意思表示のない方、また、銀行のATM、インターネットバンキングを利用してご寄付され、意思確認ができない方につきましては、匿名で掲載させていただきます(今回匿名掲載された方で、ご芳名掲載を希望される場合は、庶務部経理課までお知らせください。次回掲載させていただきます)。

問い合わせ先 庶務部経理課 TEL:03-3409-6479



電話による寄付金受付システム



「AOYAMA VISION & 青山学院応援プロジェクト」のご案内

AOYAMA VISION募金の一環として、箱根駅伝をはじめ学生スポーツ全般を支援するために、お電話一本で簡単にご寄付ができるシステムを用意いたしました。フリーダイヤルに電話して金額とクレジットカード番号を入力するだけで、ご寄付の手続きが完了します。今回は「AOYAMA VISION & 青山学院応援プロジェクト」としてオープンいたしますので、箱根駅伝での健闘を沿道やテレビなどで応援しながら、お気軽にお電話ください。皆さまのご支援をお願いいたします。

電話番号 **0120-386-111** (フリーダイヤル) 24時間受付

開設期間 2017年1月1日(日・祝)0:00~1月31日(火)23:59

- 寄付方法
- ①固定電話、携帯電話、スマートフォンから**0120-386-111**に電話をする。
 - ②音声ガイダンスに従って、1口1,000円の寄付口数を入力する。
(例えば、寄付金額が5,000円なら「5」、10,000円なら「10」。「99口」まで入力可能。)
 - ③クレジットカード番号と有効期限を入力する。
 - ④ご寄付の決済完了。

エバーグリーン募金推進本部 事務室移転のお知らせ

これまで間島記念館2階にありましたエバーグリーン募金推進本部は、大学5号館1階に移転しました。ご寄付のご相談の他、AOYAMA VISIONの具体的な展開等をご覧いただける資料もございますので、お気軽にお立ち寄りください。

資料請求
問い合わせ先

青山学院エバーグリーン募金推進本部
TEL : 0120-900-420(フリーアクセス) FAX : 03-3409-3890
E-mail : bokin@aoyamagakuin.jp
<http://www.aoyamagakuin.jp/support/index.html>

≫インターネットからのご寄付も可能です。

青山学院 募金

検索



アンケートご協力をお願い

青山学院大学では、在学生の保証人の方々に本学の取り組みや在学生の活躍をお伝えするために本誌を制作しております。皆さまのご意見を今後の広報誌制作に生かすべく、アンケート調査を行うことといたしました。つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。12月21日(水)までにご回答いただいた方の中から抽選で30名に、青学オリジナルグッズをプレゼントいたします!(当選者の発表はグッズの発送をもって代えさせていただきます)



ココサス(付箋)



アンケート回答はこちら

Club & Circle 33 青山学院管弦楽団

仲間と一つの音楽をつくり上げていく楽しみがあります。

大学文化連合会オーケストラ部と女子短期大学オーケストラ部で構成され、週3日、青山キャンパスで練習しています。主な活動は、毎年5月と11月に開催する定期演奏会。1954年の創部以来、開催は100回を超え毎回多くのお客さまにご来場いただいています。その他、毎年6月のアンサンブル大会をはじめ、12月のオール青山メサイア公演や学内イベントなど精力的に活動しています。2016年9月には新たな取り組みとして、映画音楽やポピュラーな管弦楽曲を演奏するサマーフェスティバルも開催しました。

強く印象に残っているのは、2014年9月に宮城教育大学交響楽団と合同で開催した「東日本大震災復興祈念ジョイントコンサート」。震災の傷跡が残る被災地への訪問という貴重な体験をするとともに、お客さまの笑顔を見ることができ、音楽の力の大きさを再認識しました。

さまざまな人や考え方、楽器を通して一つの音楽をつくり上げていくのが楽しくもあり難しくもあるオーケストラですが、共に頑張ってきた仲間と演奏会を成功させた時の喜びは格別です! 興味のある方は一度演奏会にいらしてください。

(広報マネージャー: 経営学部 マーケティング学科3年 林野乃花 記)



AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を年4回発行し、在学生の保証人の方々に送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内専用スタンドにて配布しています。

- バックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
- 確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**



発行元: 青山学院大学 政策・企画部
TEL : 03-3409-8159

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2016青山学院大学

●2016年11月30日発行●